

イタリア映画特集『アゴ스티とモリコーネ』

Silvano Agosti / Ennio Morricone

| 快楽の園 | クワルティエーレ 愛の渦 | カーネーションの卵 |
駅ビルシネマ 京都・ポストン姉妹都市提携50周年記念 [姉妹都市映画祭] 参加企画

10 /
23 金 ~ 27 火

京都駅ビル「駅ビルシネマ」

知られざるイタリアの巨匠 シルヴァーノ・アゴスティ
3作品を日本初公開！

私がシルヴァーノ・アゴスティに出会ったのは、マルコ・ベロッキオの『ポケットの中の握り拳』(1965年)の編集作業中のことでした。シルヴァーノは編集マンとしてあの作品に参加していて、作品の成功に貢献しましたからね。その出会いの後、私は彼の映画をすべて観て、『快楽の園』のために音楽をつけました。あれは過小評価されていますが、観客を驚かせるとても並はずれた作品ですよ。今回、私はシルヴァーノの『クワルティエーレ 愛の渦』のために作曲をしました。私が思うに、シルヴァーノは現代の才能あふれる完璧な監督のひとりですよ。

—エンニオ・モリコーネ





『快樂の園』

IL GIARDINO DELLE DELIZIE

10/23(金) 21:00
25(日) 19:10
26(月) 21:10

1967年/イタリア/74分
監督・脚本:シルヴァーノ・アゴ스티
撮影:アルド・スカヴァルダ/ヴィットーリオ・ストラウロ
音楽:エンニオ・モリコーネ
出演:モーリス・ロネ/イヴリン・スチュワート/レア・マッサリ

ハネムーン先のホテルで早くもすれ違うカップルの過去と未来が交錯する。現代にもそのまま通じるテーマを突きつけた、モリコーネのロックサウンドも異色な監督デビュー作。

この作品は、アンタッチャブルでオンリーワンだ。君にはほんの一握りの人しか持ち合わせしていないものがある。それは眼だよ。映画作りをこれからも続けると私に約束してくれないか。

—イングマール・ベルイマン

これは子供が作るような映画だな。創造する自由を持った子供がね。

—フリッツ・ラング

私はこの作品のみずみずしさをとても気に入った。

—ジャン・ルノワール



『クワルティエーレ 愛の渦』

QUARTIERE

10/24(土) 21:00
26(月) 19:10
27(火) 21:10

1987年/イタリア/81分
監督・脚本:シルヴァーノ・アゴ스티
音楽:エンニオ・モリコーネ
出演:パオラ・アゴ스티/ロレンツォ・ネグリ/ニーノ・マンゾーネ

4つの愛の物語、4つの人生の段階、4つの季節を描くオムニバス。すべてが実話なのに、すべてがファンタジック。モリコーネのベストスコアに挙げられるサントラは必聴。ヴェネツィア映画祭公式出品作品。

レイブ、ホモセクシャル、動物との情愛、運命の愛。これらが『クワルティエーレ 愛の渦』にある普遍的なテーマだ。

—アルベルト・モラヴィア

この作品で語られる愛の物語は、どれも本当にあったものです。ほとんどの俳優は素人で、自分の身に起きたことを、カメラの前で演じ直しているのです。

—シルヴァーノ・アゴ스티



『カーネーションの卵』

UOVA DI GAROFANO

10/25(日) 20:45
27(火) 19:10

(※本作の音楽はモリコーネではありません。)

1991年/イタリア/103分
監督・脚本:シルヴァーノ・アゴ스티
音楽:ダニエーレ・ヤコノ
出演:フェデリーコ・ザノーラ/ルー・カステル/アラン・キューニ
特別協力:アンドレイ・タルコフスキー

第2次大戦の終わり、混乱期にあったイタリア北部を、子供たちの視点を通して映像化した自伝的作品。あのベルトルッチも絶賛した、真正正義アゴ스티監督の代表作。

君の映画館で『カーネーションの卵』を観たよ。すばらしかった。あんまりすばらしかったから、君の本を全部買ってしまった。ただし、『映画の撮り方』以外をね…。

—フェデリーコ・フェッリーニ

君の『カーネーションの卵』に終わりがあつたのが残念でね…。僕はもっとずっと観てほしかったんだよ。

—ベルナルド・ベルトルッチ

【駅ビルシネマ】とは？

京都駅ビルに特設された期間限定ミニシアター。本年度の上映期間は、9/1(火)より10/31(土)まで。その他の上映詳細はホームページをご覧ください。→ <http://www.rcsmovie.co.jp/>

□料金

当日券 一般1,800円/学生1,500円/RCS会員1,200円/シニア1,000円
前売券 1,300円(劇場窓口とチケットぴあにて前売中、10/22(木)まで販売)
[チケットぴあPコード 461-303]

本特集では、1本ご覧頂ければ、2本目以降は当日券でも1,300円でご入場頂けます。但し、ロードショー番組につき「10月上映有効券」はご使用いただけません。
※RCS・シネマホール会員の方は、リザーブチケットもご利用頂けます。

□会場

JR京都駅北側、中央改札口から東側のエスカレーターへ。
京都駅ビルホームページ → <http://www.kyoto-station-building.co.jp/>

□席数 76席 <各回入替制>

□開場時間 上映開始10分前

□当日券販売・整理券配布時間 朝10時10分

□上映時間・遅延状況などのお問合せ
会場・駅ビルシネマ tel.075-361-4423(9/1~10/31)

□作品内容などのお問合せ
企画・RCS tel.075-342-4050(平日 11:00~20:00)

※本特集は、すべてデジタル・プロジェクターによる上映となります。



Silvano Agosti

シルヴァーノ・アゴ스티

作家・映画監督。1938年、イタリア北部、プレーシャ生まれ。高校卒業後、浪擧していたチャップリンの生家を訪れるため、渡米。好奇心旺盛な若者の旅は果てることなく、ヒッチハイクで渡り身生活を続ける。西ヨーロッパ、バルカン、中東、北アフリカと地中海をぐるりと巡り、ローマへ。62年、国立映画学校監督コースを首席で卒業し、奨学金でモスクワ国立映画学校に留学。製菓技術を磨きつつ、エイゼンシュテイン研究に没頭する。旅好きは相変わらずで、卒業後は13回15カ国をまわる。ローマに戻ると、本格的に映画製作に取り組み、同題作を次々と発表する。自主制作にこだわり、配給先は少ないものの、いわゆるインディペンデント作家として絶大な支持を得ている。83年に開いた自身の映画館は、ローマでも有数の名画座となり、映画ファンに愛されている。小説の執筆にも随分的に取り組み、イタリア最高峰の文学賞であるストレーガ賞に2作がノミネートされている。2008年、イタリアでベストセラーになった小説が『誰もが幸せになる 1日3時間しか働かない国』(マガジンハウス)として国内ではじめて出版された。



Ennio Morricone

エンニオ・モリコーネ

映画音楽で特に知られるイタリアの作曲家。1928年、ローマ生まれ。サンタ・チェチーリア音楽院で作曲技法を学び、テレビやラジオなどのマスメディアで腕をふるった後、映画界へ。60年代、セルジュ・レオーネとのコンビ等で知られる「マカロニ・ウェスタン」の作品群で名を馳せ、イタリア以外からも評価が高まっていく。実験音楽からロックや交響曲まで、作品の幅はたいへん広い。1987年には、『アンタッチャブル』でグラミー賞を獲得。日本では1989年の『ニュー・シネマ・パラダイス』でよく知られるようになり、熱烈なファンも数多く存在する。2003年には、大河ドラマ『武蔵 MUSASHI』の音楽も担当した。アゴ스티とはデビュー当時から親交が深く、アゴ스티作品のサントラのみを集めたコンピレーションCD(左)も発売されていて、日本でも輸入盤として入手できる。

